

## 1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。本学は「授業を通じた知的活性化」を全学的目標として掲げている。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施に関する対応」に取り組んでいる。

本研究科では、これらのことから、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の研究面での実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施したことである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果はもちろん、最終試験結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2008年度秋学期に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。これまでの「授業評価アンケート結果報告書」と同様に、本報告書の構成は、2008年度秋学期授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、アンケート結果（アンケート授業別集計結果（サンプル））からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会・授業評価・FD部会」のメンバーを中心として行われた。

なお、2008年度秋学期の本報告には、国際経営コースのアンケート結果についても、説明的な分析を実施した。

調査の実施等の方法についての詳細は、以下の「調査実施方法」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員の先生方に感謝申し上げる。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。さらに、最終的には、調査票の発送・回収、整理の一番煩雑ではあるが重要な作業を行っていただいた経営戦略研究科事務室にも、この場を借りて御礼申し上げます。

## 2. 調査実施方法及び期間

授業内容については、春学期・秋学期の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

### (1) 実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2008年度秋学期に開講されたすべての科目であり、2008年度夏集中科目を含んでいる。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目は150科目である。その内訳は、経営戦略専攻が71科目（企業経営戦略コース46科目および国際経営コース25科目）、会計専門職専攻が79科目であった。

現行カリキュラムのもとで、授業科目はコア科目群、ベーシック科目群およびアドバンスト

科目群に分類されており、当該授業科目の性格上、複数クラスを開講している科目もある。したがって、授業評価アンケートを実施対象クラスでみた場合、本研究科全体で184クラスであった。その内訳は、経営戦略専攻が90クラス（企業経営戦略コース61クラスおよび国際経営コース29クラス）、会計専門職専攻が94クラスである。

#### （2）回答者、回答率等について

2008年度春学期の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は2,431人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は2,081人であり、アンケート調査の回答率は85.6%であった。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は1099人（企業経営戦略コース956人および国際経営コース143人）で、アンケート調査の回答者数は970人（企業経営戦略コース829人および国際経営コース141人）であった。回答率は88.3%（企業経営戦略コース86.7%および国際経営コース98.6%）である。また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は1,332人で、アンケート調査の回答者数は1,111人であり、その回答率は83.4%であった。

#### （3）実施期間について

設置認可申請書に明記したように、授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施することとしている。したがって、2008年度秋学期の授業評価アンケートの実施期間は、第3クウォーター開講科目については、2008年11月6日（木）～11月17日（月）の最終授業時に実施した。補講を実施した科目については、最終授業時となる2008年11月13日（木）～11月23日（日）に実施した。

また、第4クウォーター開講科目については、原則的に2009年1月15日（木）～2月2日（月）の最終授業時に実施した。補講を実施した科目については、最終授業時となる2009年1月22日（木）～1月31日（土）に実施した。また、春季集中講義の各科目については2008年8月5日（火）～9月1日（月）の最終授業時にかけて実施された。

#### （4）アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙と「教員の担当科目自己評価表」の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。同時に、授業担当者は研究室や講師控室等にて「教員の担当科目自己評価表」の記入を行う。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数17～19に対して経営戦略専攻経営戦略コースおよび会計専門職専攻では最高ポイントを5とし、経営戦略専攻国際経営コースでは最高ポイントを1とする、それぞれ5段階評価のマークシートである。
- ⑥「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の3つの設問からなっている。
  - 1.「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」
  - 2.「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。」

クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。(1) 実施してよかった点、(2) 改善・工夫をした方がよい点」

3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

⑦授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、記入済みの「教員の担当科目自己評価表」とともに所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。

#### (5) 集計

2008年度秋学期の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート授業別集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数(学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数)、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、レーダーチャートによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が3問ある(「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関連して気づいたことがあれば書いてください」)。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

### 3. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

#### A. 学生による授業評価アンケート

##### (1) 概観

学生の授業評価に関する調査の方式は、授業内容や自己の学習態度など19個の設問に、学生が5段階評価で答えるというものである。今回見られた全体としての傾向は、2008年度春学期に比較して、設問11-12に関しては評価に変化が見られなかったが、残りすべての項目に関してポイントが上昇している。特に、「教員の授業内容と方法」の項目に関しては0.08ポイントの向上、「授業に対する満足度」の項目に関しては0.09の上昇が見受けられる。この結果から判断すると、「教員の授業内容と方法」に関して、さらに工夫し改善した結果が、学生の授業への評価が高まった、授業の質が向上した結果学生の満足度が高まったと評価してよいと思われる。全体的には高いレベルでの改善であると考えられる。

以下では、前回と同様に各設問をブレイクダウンして分析する。

##### (2) 設問項目について

学生による評価アンケートは、設問1から設問10が「教員の授業内容と方法」について、設問11と設問12が「学生自身の取り組み」について、設問13から設問15が「授業の全般的評価」についてであり、設問16と設問17は、コア、ベーシックおよびアドバンスの科目区分(科目群)との目的整合性について、設問18は公認会計士試験対策としての役立ちについてのものであった。また、設問19については担当教員に指示があった場合についての設問についてのものであった。

### (3) 全般的評価について

以下では、質問内容別の全般的評価を見ていく。「教員の授業内容と方法」への評価に対する質問（設問1から設問10）についての平均は4.52（前期比+0.08ポイント）、「学生自身の取り組み」（「学習への事前準備」）に対する質問（設問11と設問12）についての平均は4.01（前期比+0.1）、「授業に対する満足度」に対する質問（設問13から設問15）についての平均は4.36（前期比+0.09）であった（以上、推移や差異を明確にするため、小数点第二位まで表記している）。

微増であるが開学以来のさらに高い水準を保っていると言える。教員の授業改善への努力が継続されており、その結果が評価上昇に表れている。

#### <学生評価の推移>

	2005年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008年度 春学期と 2008年度 秋学期比較
教員の授業内容と方法 （設問1～設問10）	4.14 4.19	4.24 4.26	4.27 4.43	4.44 4.52	+0.08
学生自身の取り組み （設問11～設問12）	3.45 3.65	3.70 3.80	3.75 3.85	3.91 4.01	+0.1
授業に対する満足度 （設問13～設問15）	3.80 3.90	4.07 4.03	4.17 4.30	4.27 4.36	+0.09

### (4) 個別項目について

全般的な評価がいずれも微増であったように、個別で見ても、10項目中7項目で評価にプラスの変化が見られた。評価のマイナス変化は見られない。総じて評価は上向きであると言える。

そのプラスになった7つの項目は以下である：設問3「教員の専門性の高さ」；設問4、「教科書や配布資料の有効性」；設問5「教員は学生の議論することを配慮したか」；設問6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していたか」；設問8「授業の時間配分」；設問9「教員が学生の質問に丁寧に答えていたか」；設問10「授業が将来有意義なものであるか」。

前回から評価に変化のなかった項目は、設問1「シラバスとの整合性」、設問2「教員の準備」設問7「課題の量は適正か」であった。

#### <項目別の学生評価推移①>

	2005年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008年度 春学期と 2008年度 秋学期比較
設問1	4.3 4.4	4.4 4.4	4.4 4.6	4.6 4.6	±0.0
設問2	4.3 4.4	4.5 4.5	4.4 4.5	4.6 4.6	±0.0
設問3	4.5 4.5	4.6 4.6	4.6 4.6	4.7 4.8	+0.1

設問 4	4.1	4.1	4.2	4.4	+0.1
	4.2	4.2	4.4	4.5	
設問 5	4.2	4.2	4.3	4.4	+0.1
	4.1	4.3	4.4	4.5	
設問 6	3.8	3.9	4.0	4.2	+0.1
	3.8	4.0	4.2	4.3	
設問 7	4.0	4.0	4.1	4.3	±0.0
	4.0	4.0	4.3	4.3	
設問 8	3.6	4.0	4.0	4.2	+0.1
	4.0	3.9	4.3	4.3	
設問 9	4.4	4.4	4.4	4.5	+0.1
	4.3	4.4	4.5	4.6	
設問 10	4.2	4.3	4.3	4.5	+0.1
	4.2	4.3	4.5	4.6	

「学生側での予習・復習」(設問 11) は、4.0 ポイントで前回から変化はなかった。「授業を受けるに当たっての文献探査」(設問 12) は 4.0 で、前回より +0.1 ポイント上昇した。

<項目別の学生評価推移②>

	2005 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 春学期と 2008 年度 秋学期比較
設問 11	3.5	3.7	3.8	4.0	±0.0
	3.7	3.8	3.9	4.0	
設問 12	3.4	3.7	3.7	3.9	+0.1
	3.6	3.8	3.8	4.0	

「授業が全般的に満足いくものであったか」(設問 13) は 4.4 で、前期比較 0.1 ポイント上昇となっている。「分析力や批判力の獲得」(設問 14) は 4.3 で前期比較 0.1 ポイント上昇。「この授業を他の学生にも薦めたいか」(設問 15) は 4.4 で前期比較 0.1 ポイント上昇となっている。

<項目別の学生評価推移③>

	2005 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 春学期と 2008 年度 秋学期比較
設問 13	3.9	4.2	4.2	4.3	+0.1
	4.0	4.1	4.4	4.4	
設問 14	3.6	3.9	3.9	4.2	+0.1
	3.8	3.9	4.2	4.3	
設問 15	3.9	4.1	4.1	4.3	+0.1
	3.9	4.1	4.3	4.4	

「その分野の基礎的な内容をカバーしているか」(設問 16) に対しては前回と評価に変化はない。「初学者に対しても配慮されたものだったか」(設問 17) は 4.4 ポイントで、前期比較 0.1 ポイント上昇となっている。

<項目別の学生評価推移④>

	2005 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 春学期と 2008 年度 秋学期比較
設問 16	4.0 4.1	4.1 4.2	4.1 4.3	4.4 4.4	±0.0
設問 17	3.8 4.0	4.1 4.1	4.0 4.3	4.3 4.4	+0.1

(5) 履修者数による違い

今回の分析では、履修者数(便宜上、アンケート回答者数で代用した)による違いを見てみた。

「教員の授業内容と方法」(設問 1~10) について、10 人未満と 30-39 人の科目では評価の微減。(評価平均で 10 人未満の科目では 4.6、前期比較 0.1 ポイント減。30-39 の科目で 4.4、前期比較 0.2 ポイント減。) となっている。しかし、10-19 人と 40-49 人の科目では評価の上昇がみられる(評価平均で 10-19 人の科目では 4.6、前期比較 0.1 ポイント増。40-49 の科目で 4.3、前期比較 0.1 ポイント増)。設問 3 教員の専門性の高さにおいてはほぼ 4.8、平均 4.7 と満足度がとても高い。一方、40 人以上の科目では、設問 7 「課題の量は適正か」で、平均は 3.9 と相対的に満足度が低い。

「学生自身の取り組みを問う設問」(「学習への事前準備」) の項目 11 と項目 12 に関しては、人数間に 0.4 ポイントから 0.6 ポイントのバラつきが見られ、他の項目と比較すると大きな差が生じている。

総じて前回より上昇していると判断してよいかと思うが、引続き人数が多い科目でいかに学生の満足度を高めるかが課題であると考えられる。

<教員の授業内容と方法(設問 1~10)>

人数	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	1-10 平均
1-9	4.6	4.7	4.8	4.5	4.7	4.5	4.6	4.5	4.7	4.7	4.6
10-19	4.7	4.6	4.8	4.6	4.6	4.4	4.4	4.4	4.6	4.7	4.6
20-29	4.5	4.7	4.8	4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.6	4.6	4.5
30-39	4.6	4.6	4.8	4.5	4.2	4.1	4.3	4.2	4.5	4.5	4.4
40-49	4.4	4.5	4.6	4.4	4.5	4.1	3.9	4.0	4.4	4.6	4.3

<学生自身の取り組み(設問 11~12)、授業に対する満足度(設問 13~15)、科目区分に関する満足度(設問 16~17)>

人数	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16	問 17	11-17 平均
1-9	4.1	4.3	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4

10-19	4.1	4.0	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.4
20-29	4.0	4.1	4.5	4.3	4.5	4.4	4.5	4.3
30-39	3.9	3.7	4.2	4.1	4.2	4.4	4.2	4.1
40-49	4.3	4.0	4.4	4.2	4.4	4.3	4.3	4.3

## B. 教員による担当科目自己評価

「教員による授業アンケート」は、各担当教員に「教員担当科目自己評価表」が配られ、教員自身が以下の3つの項目に関して客観的また主観的に回答したものをアンケートとしてまとめたものである。学生評価のような定量的な評価ではない。

以下では、それぞれの質問項目について分析・考察する。

### (1) 「最も力を入れたこと」

一般の授業については、理論や分析フレームワークを体系的に理解してもらうこと、理論の実践への応用力を養成する、演習を中心にするといった回答が多い。実践への応用力を養成する具体的な方法としては、具体的な事例の紹介、ケース・ディスカッション、ゲストスピーカーによる講演、また、グループ・ワーク、ワークショップ、演習、詳細な解説など通じて、授業の活性化を図るといったことに力を入れたなどが挙げられている。

課題研究基礎・課題研究において力を入れたことについての回答は、教員それぞれに固有のものになっている。課題研究基礎の回答例としては、「論文研究を実施し、それを論文にまとめるまでのプロセスに焦点をあてた」、「仮説を設定し、アンケート、インタビュー、2次データに基づくケーススタディを作成させた」、「具体的に研究をイメージさせるためにミニ研究を行ってその過程で具体的に研究を説明した」などが挙げられている。

課題研究における例としては、「学生個人のテーマに合わせた」「学会発表に耐えるアカデミックな論文を書くこと」「研究とはどのようなものか身をもって体験させる」「実際に自分や組織、人や社会の役に立つことを研究課題に取り組む」など挙げられている。

### (2) 「実施してよかった点」

一般の授業に関しては、ケース・ディスカッション、ケースを通じた実習、グループワーク、ゲストスピーカーの招聘などが多く挙げられている。また、小まめに小テストやレポートを課し、それに対してフィードバックを行うことが有効であるという指摘も多い。具体的には、毎回課題を出す、ケースのレポートを毎回課す、毎回小テストをする、小レポートを課し毎回の理解を把握するなどである。毎回でなくても、最終レポートなどにフィードバックするなど、学生にフィードバックすることの有効性が示唆されている。このほか、個々の授業に応じた様々な方法が挙げられている。例えば、「ゲストスピーカーにディスカッションに加わってもらった」、「授業ボードへの資料掲示した」などである。こういった方法は、他の教員にとってもアイデアとして参考になるであろう。

課題研究基礎・課題研究に関しては、個々の教員がそれぞれの回答をしている。「早目にスタートを切るために夏休みに授業を行った」「福井県立大学ビジネススクールとの研究交流会を開いた」「開始前の合宿を行った」「メールによる学生相互の意見交換を促し、教員もそれについてきめ細かく対応した」など教員独自のアイデアで実践されている。

### (3) 「改善・工夫をしたほうが良い点」

教員によってそれぞれ個別の課題が指摘されている。一般の授業で複数見られた回答として

は、さらに適切なケースを探す、理論の説明とディスカッション等の授業時間内の時間配分を改善する、人数が多いことに対して何らかの対策を取るなどである。その他、授業連絡ボードを資料の配布以外にもっと活用する、授業において名前を呼んで発言を促す、といったことが指摘されている。

課題研究基礎においては、「課題の絞り込みが難しい」、「研究方法についての詳細な説明」などが挙げられている。課題研究においては、「研究方法についての詳細な解説をしたほうが良い」、「人数が多いため全員が毎回発表できなかったために、進捗が遅れた人がいた」、「時間的なバランスが良くなく研究プロセスに非効率が生じた」といった問題が指摘されている。時間外の取り組みについては、個々の教員の自主性に任せるしかないが、課題研究という科目に対して、総じて時間が足りないということを多くの教員が感じていることが窺える。

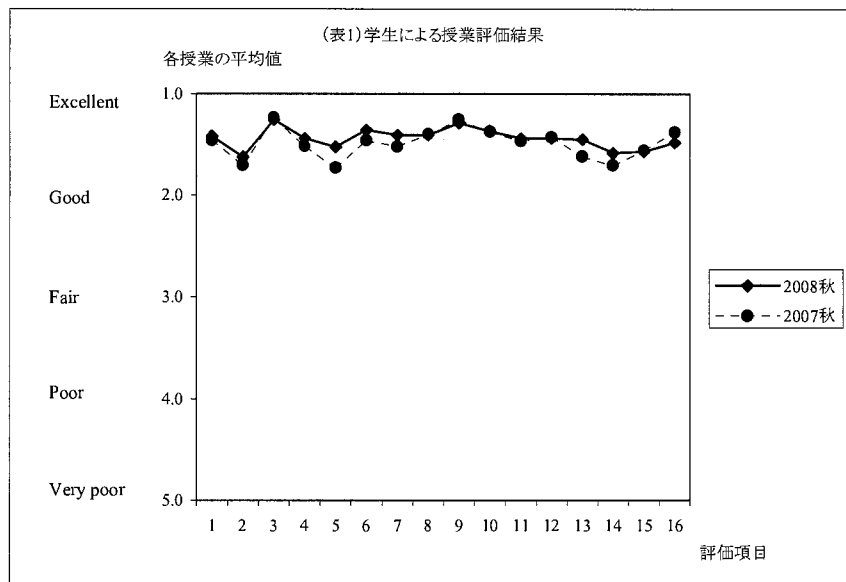
(4)「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」

おおむね達成できたという回答が多い。しかし、具体的にこの点を改善したいと問題意識をもつ教員も多く、その意味で「達成できていない」といった回答もあった。

#### 4. 経営戦略専攻国際経営コース

##### A. 全体的な傾向

学生による授業評価に関しては、全体的には概ね好評価を得ているといえる。質問票（添付資料を参考のこと）は16個の項目について、1:Excellent, 2:Good, 3:Fair, 4:Poor, 5:Very Poorの5段階で学生が各授業を評価するもので、教員、教育素材、授業の運営・構成、予習・復習などの作業負荷量など、各側面から授業の評価を行った上で、最後に、同級生や下級生に、この授業を推薦するか否かを問うものである。質問項目ごとに、全科目の平均値をみると、いずれの質問項目も低くとも1.7を上回る評価が得られており、全体的には「Excellent」および「Good」の中間に位置づけられている。多くの学生が国際経営コースで提供される科目について、概ね満足している状況であるものと考えられる。前年同期との比較でも、ほぼ同水準の評価が得られており、特に大きな変動は見られない（表1）。



一方、教員自身の自己評価も総じて肯定的なものが中心である。評価内容は、授業の実施に際して最も力を入れた点、実施して良かった点・改善すべき点、および授業目標の達成度、の

各点で、各々、自由記述で回答するものである。特に授業開始時に設定した目標の達成度に関しては、ほぼ全員が十分な理解を実現できたと自己評価している。各授業とも様々な取り組みを通じて授業内容を充実させており、概ね好成果を生んでいるものと考えられる。実施して良かった点として共通して指摘されているのは、ケース素材や実際のデータを授業の素材に活用する、コンセプトやフレームワークを事例に当てはめる思考作業を繰り返す、グループ・ディスカッション（課題）を積極的に課す、などである。一方で、一部の学生に、基礎的な知識の習得や予習の深刻な不足が見られることを今後の改善点として指摘する声もある。この点については、次節の「個別の質問項目に関する考察」の考察を受けて下記で再考する。

## B. 個別の質問項目に関する考察

学生による授業評価について、個別の項目のバラツキをみると、「教員の専門知識の高さ」（全科目平均 1.3）や「教員の熱心さ」（同 1.3）に対する評価が高い一方で、「教材の選択」（同 1.6）、「予習・復習負荷の適度さ」（同 1.6）、「単位修得要件の明確さ」（同 1.6）、などに関する評価がやや低い。こうした傾向は前年同期においても観察されるものである。さらに、評価対象となっている授業の履修を「他の学生に推薦するか否か」（同 1.5）は、水準自体は特に低くはないが、前年同期（同 1.4）との比較で最も大きな低下を示した項目である。

今後の国際経営コースの改善方向を考えるに際しては、この「他の学生に推薦するか否か」をいかに高めるかを検討することが重要な鍵を握るものと考えられる。同項目は授業全体の総合評価（質問項目 1）との相関が非常に高く、いわば各授業に対する学生の満足度の代替指標と言える。さらに、この項目は国際経営コースの重要課題の一つである受験生の増加の観点からも特段の注目に値する質問項目である。なぜなら潜在的な受験生が国際経営コースへの出願に関心を持つに至るか否かは、友人、知り合い、学部での指導教員などからの「口コミ」に強く影響されるからである。新入生を対象としたアンケートからも、彼らが、まず「口コミ」で国際経営コースの評判を耳にし、ホームページやパンフレットで、より詳しい情報を入手した上で出願に至ってきたプロセスが明確に把握されている。いうまでもなく在校生は、我々が容易にアクセスできる最大の「口コミ」源である。在校生自身の教育効果の最大化はもちろん、国際経営コースのより一段の発展の観点からも履修者が他の学生に勧めたくなる授業を一つでも増やすことが非常に重要なのである。

そこで、まず科目群ごとに「他の学生に推薦するか否か」（質問項目 16）の評価結果をみると、Management, Marketing, Finance の 3 専攻、および、コア・ベーシック・アドバンストの 3 科目群間で評価結果にバラツキが存在する。各科目群間のバラツキは 0.2 ポイント、3 専攻間では 0.6 ポイントのバラツキであった（表 2）。

	コア	ベーシック	アドバンスト	総計
Management	1.1	1.2		1.2
Marketing		1.6	1.3	1.5
Finance	1.9	2.1	1.5	1.8
その他	1.4	1.7	1.4	1.4
総計	1.4	1.6	1.4	1.5

こうしたバラツキを解消していくことが今後の改善の方向性であると思われるが、その具体的な方策を考えるには、「他の学生に推薦するか否か」の評価に影響を与える要因に関する分析が有益であろう。今回は一つの試みとして、各質問項目間の相関関係を分析した。表 3 に示すように、「他の学生に推薦するか否か（質問項目 16）」と相対的に強い相関が観察される質問

項目は、「教科書などの教材の選択（質問項目 2）」、「教員の説明の巧拙（同 4, 7）」、「学生の理解度への（教員の）関心（同 12）」、「授業内容の実用性の高さ（同 13）」、「予習・復習負荷の適度さ（同 14）」などである。逆に言えば、既に好評価を獲得している「教員の専門知識の高さ（同 3）」や、「教員の熱心さ（同 9）」だけでは、学生の高い満足度を達成することは不可能であるといえる。また、「教員の説明の巧拙（同 4, 7）」は「学生の質問への回答（同 10）」と、「予習・復習負荷の適度さ（同 14）」は「単位習得要件の明確さ（同 15）」との間で、各々、相対的に強い相関が存在することも注目し得る。単に理路整然と分かり易い説明をするだけでは恐らく不十分であり、学生の疑問の持ち方や質問の仕方に応じて適確な説明アプローチを選択する必要性が示されているものと思われる。また、予習・復習負荷に関しても、重要なのは絶対的な多寡の調整ではなく、授業目標の達成との関連で十分に納得のいく質・量が担保できているかが問われているものと考えられる。

(表3) 各質問項目間の相関関係 (n=120)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	1.00															
2	0.65	1.00														
3	0.67	0.51	1.00													
4	0.66	0.54	0.59	1.00												
5	0.60	0.50	0.35	0.54	1.00											
6	0.63	0.50	0.58	0.52	0.52	1.00										
7	0.69	0.55	0.51	0.77	0.56	0.61	1.00									
8	0.63	0.48	0.38	0.61	0.54	0.54	0.59	1.00								
9	0.55	0.49	0.54	0.54	0.38	0.64	0.61	0.62	1.00							
10	0.59	0.57	0.54	0.71	0.54	0.63	0.75	0.56	0.65	1.00						
11	0.53	0.58	0.48	0.59	0.42	0.43	0.50	0.58	0.58	0.56	1.00					
12	0.67	0.67	0.54	0.55	0.47	0.55	0.56	0.64	0.52	0.57	0.72	1.00				
13	0.65	0.67	0.50	0.49	0.49	0.44	0.57	0.47	0.42	0.44	0.57	0.61	1.00			
14	0.61	0.59	0.43	0.60	0.60	0.47	0.58	0.50	0.41	0.59	0.57	0.61	0.64	1.00		
15	0.51	0.54	0.40	0.56	0.53	0.49	0.53	0.50	0.35	0.54	0.57	0.65	0.54	0.74	1.00	
16	0.74	0.61	0.59	0.69	0.59	0.58	0.64	0.55	0.57	0.61	0.53	0.64	0.62	0.66	0.52	1.00

### C. 自己評価と学生による評価との関係

上記のように各授業に対する評価を各質問項目に見ていくと、具体的な改善の勘所が明らかになる一方で、教員の自己評価は総じて肯定的な評価が多い。ただし自己評価では概ね学習目標を達成したとされている科目でも、仔細に自由記述を検討すると学生側の評価に好ましい影響を持たないと思われる直接、間接の要因が指摘されており、これらの要因に十分に配慮していくことが改善の第一歩であるものと思われる。

第一に指摘されているのは、理解度の低い生徒や、遅刻者・欠席者などの存在がクラス全体の満足度を引き下げる結果になっている可能性である。

学生側に予備知識や予習の深刻な不足が見られる場合、当人の学習成果が思わしく無いのももちろんだが、周囲の学生にも好ましくない影響が見られるようである。教員側の関心は授業の円滑な理解に問題を抱える当の学生にのみ向きがちであるが、順調に学習が進んでいるように見える他の学生への影響も同時に配慮する必要がある点には留意が必要であろう。なお、そもそも、こうした基礎的な知識を欠いた学生が発展的な内容を扱う授業を履修する事態そのものが問題なのだが、これらの学生が必ずしも現在のカリキュラム体系で意図されているコア科目群 (Statistics, Business Economics, Accounting など) を履修していないわけではない。むしろ後述するように、課題は各授業間の内容面での連携や調整にある可能性も否定できず、もう一段、突っ込んだ分析が必要である。

このように一部の学生に理解不足が見られると言っても、必ずしも常に学生側にのみ理由があるとは限らない。例えば、学生の出身国・地域が多岐にわたる国際経営コースでは、彼らの価値観や視点も、また多様である。このため、バックグラウンドの異なる生徒が事例やケース

から教員の意図していないメッセージを汲み取ってしまう、といった事例も報告されている。このようなケースは一朝一夕には解消できるものではないが、その危険性を教員側が十分に認識した上で学生の理解を慎重に確認しながら授業を進める必要性を示すものであると考えられる。

第二に指摘されているのが、特にベーシックやアドバンスト科目を担当する教員が、関連するコア科目での履修内容を正確に把握できていないことから、説明に重複や欠落が生じる危険性である。特に非専任教員が担当する授業との間の突っ込んだ内容調整は不十分になりがちである。各教員からすれば個々の独立した授業であるが、学生の観点では一連の授業がまとまった流れを形成し国際経営コースの教育を構成している。特に各専攻内で相互に関連するコア、ベーシック、アドバンストの各授業間では担当者同士が密接に調整を行い、授業内容の過度の重複や、抜け漏れがないよう徹底を行う必要がある。

## 5. 会計専門職専攻

### A. 学生による授業評価

#### (1) 概要

学生による授業評価アンケートは、①教員の授業内容と方法について、②あなた自身の取り組みについて、③授業の全般的評価について、④コア、ベーシックおよびアドバンストの科目区分ならびに公認会計士試験への役立ちなどについての 18 項目の設問に、学生が 5 段階評価で答える方式である。

#### (2) 設問項目

学生による授業評価アンケートは、経営戦略専攻の「学生による授業評価アンケート」でも明記したように、設問 1 から設問 10 が「教員の授業内容と方法」について、設問 11 および設問 12 が「あなた自身の取り組み」について、設問 13 から設問 15 が「授業の全体的評価」についてであり、加えて、設問 16 から設問 18 が、コア、ベーシックおよびアドバンストの科目群の適切性、公認会計士試験対策としての役立ちについて問うものである。

#### (3) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点をのべ回答人数で平均したもの（総平均値）である。2005 年度春学期から 2008 年度秋学期にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。開設以来 2007 年秋学期まで上昇し続け、2008 年度春学期に 0.1 ポイント低下した。そして今回の 2008 年度秋学期に、また最高数値である 4.5 ポイントを記録した。

<すべての設問に対する総平均値の推移>

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5

#### (4) 個別評価

##### ① 設問別平均値

設問別平均値は、個々の設問の評点をのべ回答人数で平均したものであり、これを科目区分ごとの平均値でまとめたものは、次のとおりである。

② 教員の授業内容と方法

「教員の授業内容と方法」に関して評点が4.5ポイントを超える高い評点を得た設問は、設問1「授業の内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか」、設問2「教員は十分に準備して授業に臨んでいましたか」、設問3「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門的知識を持っていましたか」、設問4「授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか」、設問9「教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか」、および、設問10「この授業は将来の学習にとって有意義なものでしたか」である。設問7「この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか」、設問8「授業の内容と時間配分は適正なものでしたか」の評点は4.5ポイントである。

<設問1から設問10の平均値>

	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10
専攻全体										
2008年度春学期	4.6	4.6	4.7	4.5	4.3	4.3	4.4	4.3	4.6	4.6
2008年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6	4.6
コア科目										
2008年度春学期	4.6	4.5	4.7	4.4	4.1	4.1	4.2	4.2	4.4	4.5
2008年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.5	4.3	4.3	4.4	4.4	4.6	4.6
ベーシック科目										
2008年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.4	4.5	4.4	4.6	4.6
2008年度秋学期	4.6	4.6	4.7	4.5	4.4	4.3	4.5	4.5	4.6	4.5
アドバンスト科目										
2008年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.6
2008年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8	4.7

<設問11から設問18の平均値>

	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14	設問 15	設問 16	設問 17	設問 18
専攻全体								
2008年度春学期	3.9	3.8	4.4	4.3	4.4	4.5	4.3	4.3
2008年度秋学期	4.1	3.9	4.5	4.4	4.5	4.6	4.5	4.3
コア科目								
2008年度春学期	3.9	3.7	4.3	4.1	4.3	4.4	4.1	4.3
2008年度秋学期	4.0	3.8	4.4	4.3	4.4	4.6	4.4	4.3
ベーシック科目								
2008年度春学期	4.0	3.9	4.5	4.3	4.6	4.5	4.5	4.4
2008年度秋学期	4.0	3.8	4.4	4.3	4.5	4.5	4.5	4.2
アドバンスト科目								
2008年度春学期	4.0	4.0	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.3
2008年度秋学期	3.9	3.8	4.7	4.5	4.6	4.7	4.6	4.2

4.5ポイント未満の評点の設問は、設問5「教員は学生が発言したり議論することに十分な

配慮を払いましたか」、設問 6「教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」、である。

これらの結果は、学生が教員の授業内容の意義について理解しており、会計専門職専攻開設以来の教育面での一定の成果といえることができるだろう。ただし、学生の議論や理解の支援、課題の負荷および授業の時間配分などの授業方法に関しては改善の余地があることを示唆するものであり、より一層の研鑽を期待したい。

### ③ 学生自身の取り組み

今回の授業評価アンケートにおいて評点が 4.0 ポイント未満の結果となったものは、「学生自身の取り組み」に関する設問 12「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」だけである。「学生自身の取り組み」を問うた設問 11 および設問 12 の評価点のこれまでのアンケート調査結果の推移は、次のとおりである。

#### <学生自身の取り組みに係る評点の推移>

	2005年度 春学期	2005年度 秋学期	2006年度 春学期	2006年度 秋学期	2007年度 春学期	2007年度 秋学期	2008年度 春学期	2008年度 秋学期
設問 11	3.6	3.7	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9	4.1
設問 12	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9

設問 11「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」については、前回の 3.9 ポイントから 4.1 ポイントに、設問 12「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」については、前回の 3.8 ポイントから 3.9 ポイントに上昇している。

設問 11「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」について、前回の 3.9 ポイントから 4.1 ポイントに上昇した点は、教員の小テストや課題、レポートなどの工夫により改善したものと考えられる。後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証することが有効であろう。引き続き、学生の主体的関わりを生かしつつ学生への負荷を増加させていくことや、特に予習・復習すべき事項を伝達することなども考慮すべきであると思われる。

設問 12「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」については、前回の 3.8 ポイントから 3.9 ポイントに上昇しているものの依然として 4.0 ポイント未満の結果となった。この点に関して、教員が参考文献などを講義の中で紹介したり、レポートや課題を課す際に文献にあたる指導をすることなども考慮すべきであると思われる。

### ④ 授業の全般的評価

「授業の全体的評価」を問うた設問 13 から設問 15 については、本来は、授業評価の結論としての指標となるべきである。

「授業の全般的評価について」に関して、設問 13「この授業は全般的に満足のものでしたか」については、4.6 ポイントで前回調査よりも 0.1 ポイント上昇、設問 14「この授業を受けることで分析能力がついたと思いますか」については、4.5 ポイントで同 0.2 ポイント上昇、設問 15「この授業を他の学生に勧めたいと思いますか」は、4.3 ポイントで前回調査と横ばいであった。

後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証することが有効であるが、設問 14「この授業を受けることで分析能力がついたと思いますか」について 4.5 ポイントと 0.2 ポイント上昇したことは、担当教員の講義方法の改善とも関係があると思われる。

これらの点を踏まえて「授業の全体的評価」への取り組みは今後とも必要であり、これは、一つに「学生の取り組み」に対する教員の対応にも関わっていると考えることができる。

#### ⑤ 科目区分別の評価

コア科目に関しては、前回の2008年度春学期での調査では、設問17「授業内容は初学者に対しても配慮されたものでしたか」の評点が4.1ポイントと低かったが、今回の調査では4.4ポイントと上昇した。また、コア科目に関して、設問5「教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか」、設問6「教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」がそれぞれ4.3ポイントと低い評価になっている。設問5に関しては、コア科目では履修人数の多さに対して、講義時間も限られており、学生の発言や議論の時間をとることが難しいという点に関係している可能性はある。とはいうものの、設問5の学生が発言したり議論することへの十分な配慮に対する学生の評価が高くないことと、設問6の個々の学生の内容理解の水準の理解への評価が高くないことには関連性があるかもしれない。教員は今まで以上に学生の発言や議論をすることへの配慮をするとともに、個々の学生の内容理解の水準の把握に努める必要があると考えることができる。

さらに、ベーシック科目の設問17「授業内容は理論と実践のバランスのとれたものでしたか」の評点は4.4ポイント、アドバンスト科目の設問17「授業内容は自らの将来のキャリアに役立つものでしたか」の評点は4.6ポイント、これに対して、それぞれの設問18「この科目は公認会計士試験の基礎的な受験対策として役に立ちましたか」の評点は4.3ポイント、設問18「この科目は公認会計士試験の応用的な受験対策として役に立ちましたか」の評点は4.2ポイントという低いものとなっている。

これらのことは、特に、各科目分野の導入教育、公認会計士養成の教育について改善の余地があることを示唆するものであり、今後とも重要な課題であると位置づけられよう。

### B. 教員による担当科目自己評価

#### (1) 概要

教員の担当科目自己評価表においては、①この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、②この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか、③この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか、という設問について、担当教員が回答するものである。

#### (2) 各質問項目の回答傾向

ここでは科目区分毎の回答傾向を提示しているが、公認会計士養成プログラム、企業経理財務担当者養成プログラム、自治体会計・行政経営専門職養成プログラムかどうかで、その達成目標は自ずと異なることから、下記はこのような点も反映された回答といえる。

① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」を問う設問1に関して、コア科目については、担当科目に関する「基礎的な知識の修得」・「体系的な理解」・「全体像の理解」・「総合的な理解」など基礎的知識の体系的・総合的な理解を目的とする回答と、「問題を解く時間の確保」・「計算能力の向上」・「計算方法の解説」といった計算能力の向上を目的とする回答がみられた。

ベーシック科目については、具体的な論点や重点項目な具体的な講義内容を挙げた回答が多かった。また、「丁寧な解説」・「理解できるように講義」・「科目に興味をもってもらうようにする」・「受験へのモチベーションを高める」・「インタラクティブな授業の実施」・「事例による解説」・「レジメの使用」・「ケースの使用、グループディスカッション」・「自

主的なテーマ選び、質問・発表の活発化」といった講義方法や講義手法に関する回答や、「実務と制度との関連」・「論理的思考が明確にできるような授業」といった学生に身につけさせたい知識、能力にふれた回答もみられた。

アドバンスト科目については、それぞれの科目の主要テーマの重要性を理解させるという回答が多くみられた。また、「実務の動向」・「研究の最新動向」・「理論的背景」・「多くの事例を紹介」・「実際の学習」・「実践的活用ができるようにすること」・「考え方のフレームワークを提供」・「考え方の理解」・「基礎的な概念の網羅的理解」・「学生とのコミュニケーション 双方向のやりとり」・「インタラクティブな講義」・「インパクトのある事例による講義」・「未加工の資料の活用」・「事例の紹介」・「発表・討論の実施」・「事例研究における討議」・「楽しく学んでもらうこと」など講義の内容や進め方などについて多彩な回答が見られた。さらに、「課題研究論文の執筆ができるようにすること」・「試験に求められる論理構成力、判断力、応用力」・「論述力」など履修者に身につけてもらいたい能力を挙げた回答も見られた。そのほかにも「図解」、「レジュメや板書」といった教員自身の授業方法に関する回答も見られた。

- ② 「担当科目について実施してよかった点」を問う設問 2-1 に関して、コア科目については、「小テストの実施」・「小テストの範囲を予め明示した」・「レジュメの事前配布」・「毎回課題を課す」・「自作問題を入れたレジュメ」・「レポートの提出」・「事前課題を課す」・「関連書籍の紹介」・「実務経験からの話をした」といった回答が見られた。

ベーシック科目については、「小テストの実施」・「毎回の課題」・「事後課題」・「演習問題を解く機会を与えた」・「グループディスカッション」・「クラス・ディスカッション」・「自ら事例問題と模範解答の作成」・「最近のトピックを多く紹介」といった回答がみられた。

アドバンスト科目については、科目の位置づけを踏まえた「双方向の講義」という回答のほか、「事例（ケーススタディ）の活用」・「実際のデータを用いて具体的な分析」・「ゲスト講師の招聘」・「公表されている報告書を利用したグループワーク」・「学生による発表」・「グループディスカッション」・「レポートの提出」・「多くの計算問題演習」・「監査ロールプレイ」・「パネル・ディスカッション」・「社長への模擬インタビュー」・「事前に講義資料を配布」・「事前に課題を出し講義時に検討を行う」・「ビデオ放映」といった多彩な回答がみられた。

- ③ 「担当科目について改善・工夫した方がよい点」を問う設問 2-2 に関して、コア科目については、「学生の発表機会の確保」・「事例を挙げての解説」・「質問時間を設ける」・「宿題を出してもよいのではないか」・「他の科目とのリンク強化」・「教科書の選択」・「事前学習の方法の工夫」といった回答が見られた。

ベーシック科目については、「学生が議論する時間を確保」・「難解な箇所をもう少し詳しく解説すべきであった」・「レジュメで要点を整理した方がよかった」・「発表時間の配分」・「教材開発」・「履修生とのコミュニケーション」・「宿題を入れる」・「レジュメの内容をもう少し詳細にする」といった回答がみられた。

アドバンスト科目については、「講義すべきポイントの絞込み」・「時間配分」・「ディスカッションする時間の確保」・「学生が発表する時間を増やす」・「学生の既存知識に差がある場合にどうするか」・「事例の活用」・「教材の事前配布」・「平常点も評価に入れる」といった回答がみられた。

- ④ 「講義目標の達成度」を問う設問 3 に関しては、「達成できた」、「おおむね達成できた」との回答が大半であった。ただし、「達成できていない。小テストの問題内容、事後課題の内容の意味がほとんど伝わっていないと思う」、「基礎知識の乏しい者への配慮が問題だと思われた。」「昨年以上に基礎知識がない学生が多く、講義を進める上でかなり苦労した。」などの意見も散見されるところである。

### (3) 自己評価表の全体的傾向

会計専門職専攻教員の担当科目自己評価表から整理できる全体的な傾向としては、以下の点である。

- ① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」に関しては、担当科目の科目区分(コア・ベーシック・アドバンスト)を踏まえて、担当科目に関する基礎的知識の習得、体系的な理解、問題解決能力の養成等が設定されており、総じて、担当教員が科目区分、プログラム、そして科目の性質(課題研究・詳説、事例研究、自治体関係)を踏まえて講義に望んでいるものと思われる。  
ただし、当該設問は、教員が目指す目標であると同時に学生が講義を通じて達成すべき到達点を示し、また講義に臨む姿勢などを示す部分でもある。そして、「講義目標の達成度」と連関しているものであるため、記述は具体的であることが望ましい。
- ② 「実施して良かった点」に関しては、小テストの実施が各科目群を通じて多いことは、学生の講義内容の理解度の確認とこれを通じた講義内容の改善に有用であることを示唆するものである。もちろん、レポートの提出、事前課題の提示、事後課題の賦課等の方法と合わせて、講義内容の理解を促す方法について、継続して実施・改善することが必要である。
- ③ 「改善・工夫した方が良い点」に関しては、講義の時間配分、学生の質問時間等の確保、資料の改善、事例の活用、小テストの実施といった回答が大勢といえ、これがあると認識している教員においては、早期に実施すべきことが要請される。なお、ベーシック科目においては、基礎知識の乏しい学生に対するフォローアップを挙げる回答があったことを付記しておく。
- ④ 教員による担当科目自己評価表の提出時期は、現在、学生による授業評価アンケートと同時期になっている。そこで、「改善・工夫した方が良い点」に関して特にナシと回答した教員、そして、「講義目標の達成度」に関して達成できた、おおむね達成できたとの回答をした教員においても、学生による授業評価アンケートと試験結果とを踏まえて、自己評価表を見直すことが要請される。

## 6. まとめと残された問題

学生による授業評価アンケートは、2005年度経営戦略研究科開設以来4年間にわたって統一の様式・設問により実施していることから、各アンケート設問に対する回答結果をもとに時系列分析を行うことが可能となっており、本報告においても、経営戦略専攻企業経営戦略コースと会計専門職専攻については、アンケート結果の時系列分析を実施している。一方、担当教員による授業自己評価アンケートは、自由記述形式となっており数値的比較にはなじまないが、質問項目のテーマの継続性から、授業評価アンケートの評価ポイントを継続的に向上させていく改善活動には有効である。

本報告では、従来、直接元データを開示することにより説明的な分析を実施していなかった経営戦略専攻国際経営コースについての記述的分析も加えている。ただし、設問の内容および数について、英語表記の問題等もあり、これまでの経営戦略専攻企業経営戦略コースや会計専門職専攻で実施されている様式・設問とは異なっている。また、評価方法も1を最上位値とする五段階評価となっており、5を最上位値とする企業経営戦略コースとは異なっていることから留意を要する。2009年度のアンケートからは、経営戦略研究科として各専攻・コースに統一のアンケート様式・設問を実施する予定である。

### (1) 経営戦略専攻企業経営戦略コース

学生による授業評価アンケートについては、なおポイントの上昇傾向が見られる。例年と同

じく「教員の授業内容と方法」に対する評価は高評価で安定しており、教員が専門知識を活かしてシラバスに沿って相当な授業準備を行って授業に臨んでいることがうかがえる。「授業に対する満足度」についても、前回調査よりも上昇傾向となっている。一方、「学生自身の取り組み」については漸次改善されているものの、「教員の授業内容と方法」に比べると相対的に低い評価となっており、引き続き改善の余地が残っていると見える。

担当教員による授業自己評価アンケートについては、実施して良かった点という設問から、ケース・ディスカッション、ゲストスピーカーによる講演、グループ・ワーク、小テストやレポートなどが多くあげられていた。これらも考慮して各科目において今後の具体的な方策へとつなげていくことが望まれる。また、経営戦略研究科の課題研究に関しては、時間不足も指摘されている。これらの対応としての講義内容の改善が学生自身による取り組みと連動してアンケートの評価ポイントが全体的に高まっていくことが今後の課題である。

### (2) 経営戦略専攻国際経営コース

2008年度秋学期の授業評価結果を基に、今後、考えられる改善の方向性を中心に分析と考察を行った。学生による授業評価結果は総じて好ましいものであった。ただし「他の学生に推薦するか否か」を中心とする個別の項目に関しては、実質的な改善の必要性が存在するものと考えられる。

特に「学生の質問への回答」、「学生の理解度への関心」、「授業内容の実用性の高さ」、「単位習得要件の明確さ」などは極めて改善行動の取り易い項目である。授業内容に対するニーズなどをこまめにヒアリングする、小テストの実施や期中レポートの実施などにより学生の理解度を確認しながら進める、といった地道な対応が有効であろう。ベーシック科目やアドバンス科目を履修する学生の知識レベルを担保するためには、入学時の履修指導の徹底やシラバスへの履修要件の明記、履修登録時・初回授業時の担当教員による履修要件の説明などの施策だけではなく、教員間でのすり合わせを徹底し、各授業間での内容面での連携・調整を強化していく必要がある。

### (3) 会計専門職専攻

学生による授業評価アンケートについては、すべての設問において横ばいもしくは上昇であり下落はなかった。質問群別には、例年と同じく「教員の授業内容と方法」に対する評価が高く、「授業に対する満足度」についても、なお上昇傾向となっている。教員の継続的な取り組みがうかがえるところである。一方、「学生自身の取り組み」については評価は高まりつつあるものの、「教員の授業内容と方法」に比べると相対的に低い評価となっており、引き続き改善が望まれるところである。

また、科目群別の評価において、コア科目の評点が、ベーシック科目やアドバンス科目の評点よりも低くなっているものもあり、各科目分野の導入教育、公認会計士養成の教育について改善の余地があるように思われる。

このような科目群別の特徴は、担当教員による授業自己評価アンケートにも見られ、コア科目群では基礎的知識の理解や計算能力の向上、ベーシック・アドバンス科目群では講義内容や講義の主要テーマの理解に関する手立てに関心が高まる傾向が見られるところである。

本報告では、特定のアンケート項目と関連性の高い他のアンケート項目に着目して、相互の分析から、より具体的な方策を検討するアイデアも用いられている。これについては、2009年度のアンケートの実施からクロス分析も可能なデータ集計方法を計画しており、より詳細な分析結果が期待される。

2006年度春学期の「授業評価アンケート結果報告書」以降に明記されている授業評価の実施

過程のなかで、「評価で特に優れた教員については、これを表彰する」、いわゆるベスト・ティーチャー賞の創設について提言されている。教育研究水準の継続的な向上を図るためにも、授業評価・FD部会は当該表彰制度の創設について具体的な検討を行ったが、適切な評価方法（選出基準）を決定するには至らず、実施を見送っている。教員の資質向上、教育内容改善に対するモチベーションを高める施策については、今後も引き続き議論する必要がある。

2007年度以降、春学期に「専任教員相互授業参観」および「授業担当教員と参観者による意見交換会」が実施されており、今後もこのスケジュールで実施する予定である。

「教授法（FD）に関する意見交換会」は、2008年度以降継続的に実施されている。2008年度秋学期の開催は、次のとおりである。

日 時：2009年2月4日（水）

テーマ：ケース・メソッドをベースにした授業運営

講 師：佐藤善信教授

本報告年度に開催された「教授法（FD）に関する研修会」は、以下のとおりである。

日 時：2008年12月3日（水）

テーマ：国際化の中の会計教育

1. 国際財務報告基準 IFRS をどのように教えるのか
2. 会計大学院の現状と課題
3. アイルランド勅許会計士協会の教育制度
4. 国家と会計制度
5. 世界との連携

講 師：高田敏文 東北大学教授

学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価の実施を通じて、ビジネススクールおよびアカウンティングスクールの教育固有の諸課題を把握することができた。今後はこれらの課題に対応して、ビジネススクールおよびアカウンティングスクールの教育の質的向上を図っていく所存である。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
自己評価委員会

コンビーナー 甲斐良隆

## 2008年度秋授業評価アンケート実施授業科目一覧

2008年度春集中科目含む  
2008年度秋集中科目除く

講義コード	科目	クラス	教員	期間	曜日	時限	履修
経営戦略専攻企業経営戦略コース							
97101002	企業倫理	2	宮本 又郎	秋前	木	VI	38
97102003	経営学	3	鈴木 修	秋前	火	VI	11
97103002	会計学	2	児島 幸治	秋後	金	VI	35
97104002	経済学	2	新庄 浩二	秋前	土	I	32
97105002	統計学	2	羽室 行信	秋後	木	VI	16
97106003	英語コミュニケーション	3	マーク シニア	秋前	水	VI	18
97106004	英語コミュニケーション	4	マーク シニア	秋後	水	VI	16
97151002	経営戦略	2	小高 久仁子	秋前	火	VI	11
97151003	経営戦略	3	小高 久仁子	秋後	火	VI	17
97152002	人的資源開発	2	大内 章子	秋前	月	VI	29
97153002	マーケティング・マネジメント	2	佐藤 善信	秋前	金	VI	34
97154002	ファイナンス	2	甲斐 良隆	秋前	土	III	35
97155002	企業ファイナンス	2	岡田 克彦	秋後	土	III	27
97157000	財務諸表分析		青柳 克宏	秋前	水	VI	38
97158002	テクノロジー・マネジメント	2	玉田 俊平太	秋後	月	VI	23
97159002	情報システム	2	羽室 行信	秋前	日	V	8
97160000	生産システム		加藤 直樹	秋前	土	I	11
97161001	ベンチャービジネス	1	定藤 繁樹	春	夏集中		65
97161002	ベンチャービジネス	2	定藤 繁樹	秋前	土	III	9
97163000	統計分析論		有馬 昌宏	秋前	水	VI	10
97165000	国際経済学		中西 訓嗣	秋前	金	VI	4
97167002	上級英語コミュニケーション	2	ジョセフ シーハン	秋前後	土	III	4
97202000	企業家論		宮本 又郎	秋後	木	VI	12
97203000	組織管理		奥林 康司	秋後	木	VI	27
97204000	国際比較経営		マーティン コリック	秋後	土	III	11
97206000	事業システム戦略論		加護野 忠男	秋後	土	III	32
97207000	組織管理事例研究		岡本 好央	秋後	土	III	14
97208002	経営戦略事例研究	2	岡本 好央	秋前	土	III	28
97209000	サービス・マーケティング		山本 昭二	秋前	木	VI	10
97210000	チャンネル・マネジメント		山本 昭二	秋後	日	V	15
97211000	ブランド・マネジメント		梅本 春夫	秋前	土	VI	25
97212001	マーケティング・コミュニケーション	1	梅本 春夫	春	夏集中		27
97212002	マーケティング・コミュニケーション	2	梅本 春夫	秋後	土	VI	22
97216000	ロジスティクス		伊藤 秀和	秋後	月	VI	5
97217000	国際マーケティング		藤沢 武史	秋後	火	VI	10
97218000	マーケティング・リサーチ		中西 正雄	秋後	水	VI	17
97220000	金融論		久保田 哲夫	秋前	月	VI	7
97224000	金融商品		甲斐 良隆	秋後	月	VI	15
97226000	リスクマネジメント		ジョン ホング	秋後	火	VI	10
97228000	金融商品取引法		小林 章博	秋前	水	VI	3
97230000	イノベーション経営		玉田 俊平太	秋前	日	V	17
97233002	製品開発事例研究	2	服部 宏紀	秋後	木	VI	4
97235000	eビジネス事例研究		吉田 雅紀	秋後	月	VI	24
97237000	ベンチャービジネス事例研究		吉田 雅紀	秋前	月	VI	10
97238000	企業倫理事例研究		石田 寛	秋後	月	VI	15
97239000	コストマネジメント		窪田 祐一	春	夏集中		24
97240000	ITマネジメント		湯浅 忠	秋前	火	VI	12
97241000	知的財産権法		小南 典子	秋前	土	I	6
97245003	課題研究基礎	3	定藤 繁樹	秋後	土	III	10
97245005	課題研究基礎	5	佐藤 善信	秋前	日	V	3
97245009	課題研究基礎	9	大内 章子	秋後	土	III	4
97246002	課題研究	2	宮本 又郎	秋	土	I	8
97246004	課題研究	4	小高 久仁子	秋	土	I	4
97246006	課題研究	6	佐藤 善信	秋	日	III	2
97246008	課題研究	8	山本 昭二	秋	土	I	9
97246010	課題研究	10	甲斐 良隆	秋	土	I	4
97246012	課題研究	12	大内 章子	秋	土	I	8
97246014	課題研究	14	岡田 克彦	秋	日	III	1
97246016	課題研究	16	定藤 繁樹	秋	土	I	5
97246018	課題研究	18	玉田 俊平太	秋	日	III	2
97246020	課題研究	20	羽室 行信	秋	日	III	3
経営戦略専攻国際経営コース							
97301002	Business Ethics	2	石田 寛	秋後	月	I	9
97302002	Management	2	鈴木 修	秋前	月	III	9
97303002	Accounting for Decision Making	2	Marwata	秋前	月	IV	8
97304002	Business Economics	2	新庄 浩二	秋後	月	III	2
97306002	English Communication	2	マーク シニア	秋前	水	III	5
97351000	Making Ethical Decisions		石田 寛	秋後	月	III	1

講義コード	科目	クラス	教員	期間	曜日	時限	履修
97352000	Corporate Strategy		デヴィッド メッセイ	秋後	火	II	8
97353000	Designing Organizational Systems		鈴木 修	秋後	火	IV	4
97354002	International Management	2	デヴィッド メッセイ	秋前	月	I	3
97355000	Leadership and Corporate Renewal		デヴィッド メッセイ	秋後	火	V	4
97356002	Marketing Management	2	山川 茂孝	秋前	火	III	11
97357000	Marketing Strategy		佐藤 善信	秋後	金	III	6
97358002	Principles of Finance	2	ジョン ホング	秋前	火	V	6
97359002	Corporate Finance	2	平木 多賀人	秋後	火	I	2
97360000	Financial Reporting and Analysis		Marwata	秋後	木	III	3
97363000	Advanced English for Business Practice		ジョセフ シーハン	秋後	土	III	10
97409002	International Marketing Practice	2	M. J. グルーベル	秋前	火	II	6
97410000	Brand Management		北村 秀実	春	夏集中		8
97411002	Marketing Communication	2	北村 秀実	秋前	金	IV	8
97412000	Financial Risk Management		ジョン ホング	秋後	木	I	10
97416000	Portfolio Management		平木 多賀人	秋前	火	I	3
97417000	Corporate Restructuring		平木 多賀人	秋後	木	III	2
97418000	International Accounting		Marwata	秋前	月	III	3
97429002	Group Research Project	2	鈴木 修	秋前	木	I	5
97429003	Group Research Project	3	平木 多賀人	秋後	木	I	2
97430002	Individual Research	2	デヴィッド メッセイ	秋	水	I	2
97430004	Individual Research	4	ジョン ホング	秋	水	I	5
97430007	Individual Research	7	マーティン コリック	秋	水	III	1
97430009	Individual Research	9	中西 正雄	秋	水	III	1
	会計専門職専攻						
97511002	国際会計論	2	杉本 徳栄	春	夏集中		34
97511003	国際会計論	3	杉本 徳栄	秋前	金	III	15
97511004	国際会計論	4	杉本 徳栄	秋後	水	VI	17
97513003	簿記基礎	3	小市 裕之	秋前	土	I	14
97514003	簿記	3	中島 稔哲	秋前	火	III	13
97514004	簿記	4	中島 稔哲	秋後	土	I	12
97515002	財務会計基礎	2	杉本 徳栄	秋前	土	I	23
97516003	財務会計論	3	山地 範明	秋前	火	VI	13
97516004	財務会計論	4	山地 範明	秋後	火	I	6
97531002	管理会計基礎	2	徳崎 進	秋前	火	III	11
97532003	管理会計論	3	浜田 和樹	秋前	月	I	23
97532004	管理会計論	4	浜田 和樹	秋後	月	VI	21
97533002	原価計算基礎	2	稲澤 克祐	秋後	土	V	14
97534003	原価計算論	3	徳崎 進	秋前	木	III	10
97534004	原価計算論	4	徳崎 進	秋前	土	I	11
97551003	会計倫理	3	西尾 宇一郎	春	夏集中		14
97551004	会計倫理	4	西尾 宇一郎	秋前	土	III	12
97552003	監査論	3	西尾 宇一郎	秋前	月	III	15
97552004	監査論	4	西尾 宇一郎	秋後	土	III	25
97561002	経済学	2	新庄 浩二	秋前	木	VI	7
97562003	経営学	3	加藤 雄士	秋前	土	I	13
97562004	経営学	4	加藤 雄士	秋後	土	I	10
97581003	企業法	3	岡本 智英子	秋前	火	I	7
97581004	企業法	4	岡本 智英子	秋前	火	VI	9
97582002	租税法基礎	2	西尾 宇一郎	秋前	土	V	40
97583002	法人税法	2	西尾 宇一郎	秋後	土	V	25
97611002	簿記応用	2	山地 範明	秋前	火	I	22
97612002	会計基準論	2	中島 稔哲	秋後	火	III	15
97613002	国際会計基準論	2	杉本 徳栄	秋後	金	III	4
97614002	連結財務諸表論	2	山地 範明	秋後	火	VI	37
97615002	会計制度論	2	上田 耕治	秋前	木	I	11
97616002	国際公会計論	2	稲澤 克祐	秋前	水	VI	5
97618002	会社法会計論	2	池浦 良典	秋前	火	VI	4
97631002	予算管理論	2	小菅 正伸	秋前	月	VI	24
97632001	コストマネジメント	1	窪田 祐一	春	夏集中		18
97633002	財務分析	2	井上 浩一	秋前	金	VI	14
97651002	監査制度論	2	上田 耕治	秋後	木	I	15
97652002	監査基準論	2	野呂 貴生	秋後	土	V	34
97661002	経済政策	2	新庄 浩二	秋後	木	III	3
97662002	財政学	2	稲澤 克祐	秋後	水	VI	6
97664000	ファイナンス		甲斐 良隆	秋後	金	III	20
97665002	経営管理論	2	加藤 雄士	秋前	土	III	23
97667002	経営財務論	2	徳崎 進	秋後	木	III	5
97668002	ビジネスコミュニケーション	2	マーク シニア	秋後	水	III	6
97669002	行政経営論	2	石原 俊彦	春	夏集中		13
97682002	商法	2	岡本 智英子	秋後	火	VI	1
97683002	会社法	2	岡本 智英子	秋後	火	I	8
97685002	金融商品取引法	2	田中 庸介	秋前	土	V	18

講義コード	科目	クラス	教員	期間	曜日	時限	履修
97686001	所得税法・消費税法	1	井村 登	春	夏集中		40
97686002	所得税法・消費税法	2	井村 登	秋後	月	VI	23
97687001	租税法実務	1	宮口 定雄	春	夏集中		28
97711002	簿記実践	2	玉山 慶幸	秋前	火	VI	25
97711500	英文会計		前原 啓二	秋後	水	VI	32
97713000	中小社会計論		宮口 定雄	春	夏集中		25
97714000	環境会計論		阪 智香	秋前	水	I	6
97715000	地方自治体財務会計論		石原 俊彦	秋前	土	III	13
97715500	地方公営企業会計論		石原 俊彦	秋前	水	VI	11
97718502	財務会計課題研究	2	杉本 徳栄	秋	金	I	3
97718503	財務会計課題研究	3	上田 耕治	秋	木	VI	3
97719000	公会計課題研究		稲澤 克祐	秋	土	I	9
97720002	財務会計事例研究	2	西田 隆行	秋後	金	VI	11
97720500	公会計事例研究		小市 裕之	春	夏集中		14
97721000	企業内容開示論		上田 耕治	秋後	土	I	11
97733000	地方自治体原価計算論		石原 俊彦	秋後	土	I	14
97735000	地方自治体予算管理論		稲澤 克祐	秋前	土	III	13
97735500	地方自治体財務分析		石原 俊彦	秋前	土	I	6
97736000	管理会計課題研究		浜田 和樹	秋	金	VI	5
97736500	原価計算課題研究		玉置 求己	秋	土	III	31
97737000	管理会計事例研究		徳崎 進	秋後	金	VI	2
97752500	システム監査		木村 安寿	秋前	土	III	16
97753500	監査役監査		木村 安寿	春	夏集中		18
97754500	行政評価論		稲澤 克祐	春	夏集中		22
97756501	監査事例研究	1	西田 隆行	秋前	金	VI	11
97761000	地方財政論		稲澤 克祐	秋後	土	III	15
97761502	経済学詳説	2	三木 潤一	秋後	月	III	5
97763000	経営戦略		上野 恭裕	秋後	金	VI	15
97763500	組織管理		奥林 康司	秋後	木	VI	5
97764000	国際比較経営		マーティン コリック	秋後	土	III	1
97765000	コーポレート・ガバナンス		石田 秀樹	秋前	水	VI	24
97766500	地方自治体ファイナンス		石原 俊彦	秋後	月	VI	5
97767000	地方自治体情報システム		木村 公則	春	夏集中		16
97768502	行政経営事例研究	2	武久 顕也	春	夏集中		5
97769501	海外行政経営事情	1	武久 顕也	秋前	土	V	2
97769502	海外行政経営事情	2	石原 俊彦	春	夏集中		12
97770000	地方自治体人材開発論		加藤 雄士	秋後	土	III	10
97782000	知的財産権法		小林 恵	秋後	木	III	7
97782500	信託法		杉浦 宣彦	春	夏集中		17
97783502	企業法要説	2	朝沼 晃	秋前	水	VI	10
97783503	企業法要説	3	朝沼 晃	秋後	水	III	4
97784502	税務申告実務	2	青柳 吉宏	秋後	土	V	10
97785500	租税法課題研究		西尾 宇一郎	秋	月	VI	9
97787500	租税法事例研究		瀬戸口 有雄	秋前	金	VI	9
97788000	会社法事例研究		池島 真策	秋前	月	VI	6

# 授業に関するアンケート

- ・このアンケートは、より充実した授業にするための資料とするものです。
- ・この調査結果が、あなたの成績に影響することはありません。率直に、かつ責任ある回答をしてください。

注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用紙は破損したり曲げたり汚したりしないでください。</li> <li>・鉛筆はHBまたはBを使用してください。</li> <li>・マークは直接機械にかけるため、例のように番号の○印を塗りつぶしてください。</li> <li>・消すときは消しゴムで完全に消してください。</li> </ul> <p>(例) 良いマーク ● 悪いマーク ○</p>
------	---

科目名		クラス	
担当者名		曜日	

授業 No.	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

\* あなた自身のことについて

① 学年	① ② ③	1:1年 2:2年 3:それ以上
② 所属専攻	① ②	1:経営戦略専攻 2:会計専門職専攻
③ 出身学部	① ② ③ ④ ⑤	1:商・経済・経営系学部 2:その他の社会科学系 3:人文系学部(文学部、外国語学部など) 4:理系学部 5:その他

そう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
------	----------	-----------	-----------	--------

(1) 教員の授業内容と方法について

Q1 授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	⑤	④	③	②	①
Q2 教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	⑤	④	③	②	①
Q3 教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	⑤	④	③	②	①
Q4 授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	⑤	④	③	②	①
Q5 教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか。	⑤	④	③	②	①
Q6 教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	⑤	④	③	②	①
Q7 この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	⑤	④	③	②	①
Q8 授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	⑤	④	③	②	①
Q9 教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	⑤	④	③	②	①
Q10 この授業は将来の学習にとって有意義なものでしたか。	⑤	④	③	②	①

(2) あなた自身の取り組みについて

Q11 この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。	⑤	④	③	②	①
Q12 この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。	⑤	④	③	②	①

(3) 授業の全般的評価について

Q13 この授業は全般的に満足のいくものでしたか。	⑤	④	③	②	①
Q14 この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	⑤	④	③	②	①
Q15 この授業を他の学生に勧めたいと思いますか。	⑤	④	③	②	①

(4) Q16~Q19は該当するグレードの設問にのみ回答してください。

(Q18は会計専門職専攻以外の場合⑨をマークしてください。)

◆コア

Q16 授業内容はその分野の基礎的な内容をカバーしているものでしたか。	⑤	④	③	②	①	
Q17 授業内容は初学者に対しても配慮されたものでしたか。	⑤	④	③	②	①	
Q18 この科目は、公認会計士試験の入門的な受験対策として、役に立ちましたか。	⑤	④	③	②	①	⑨
Q19 (担当教員の指示があった場合のみ答えて下さい。)	⑤	④	③	②	①	

◆ベーシック

Q16 授業内容は、コア科目の内容と関連しているものでしたか。	⑤	④	③	②	①	
Q17 授業内容は、理論と実践のバランスのとれたものでしたか。	⑤	④	③	②	①	
Q18 この科目は、公認会計士試験の基礎的な受験対策として、役に立ちましたか。	⑤	④	③	②	①	⑨
Q19 (担当教員の指示があった場合のみ答えて下さい。)	⑤	④	③	②	①	

◆アドバンスト

Q16 授業内容は、高度な実践性を伴うものでしたか。	⑤	④	③	②	①	
Q17 授業の内容は自らの将来のキャリアに役立つものでしたか。	⑤	④	③	②	①	
Q18 この科目は、公認会計士試験の応用的な受験対策として、役に立ちましたか。	⑤	④	③	②	①	⑨
Q19 (担当教員の指示があった場合のみ答えて下さい。)	⑤	④	③	②	①	

(裏面に続く)

(5) 記述評価項目

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。


b) この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください。


c) この授業に関してほかに気づいたことがあれば書いてください。